

## 《Ⅶ 社会的活動》の記述及び資料等について

### 【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】

(1) 社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定かを記述して下さい。

地域住民にとって生涯教育の一環として意義のある公開講座を、本学の特色を活かし開催している。地域への広報として、広告板によるポスター掲示、企業への掲示依頼による広報により、参加者があり、好評を得ている。

また、本学は、京都市の中心部より少し西に位置し、交通の利便性が高いことから、しばしば学会、研究会、研修会、資格検定試験等の会場として利用されているほか、図書館も一般への開放を行っている。さらに、地蔵盆やラジオ体操等、地域が実施する諸行事等のために施設を開放している。

本学と地域との共存、地域への貢献は重要な課題であるとの認識のもと、本学の教育・研究の成果を地域に還元し、地域に根ざした短期大学を目指している。その目標は、次のとおりである。

- ①地域における異文化間交流を推進する。
- ②教育研究の成果を社会に還元する。
- ③社会（市民）への施設・設備の開放に努める。

参考資料 29 「アカデミックレポート」(Ⅱ. 教育研究の内容・方法等 8. 公開講座等の活動)

(2) 社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

社会人特別入学試験を、平成9年度より導入しており、勤労者・主婦等で23歳以上の社会人を対象としている。

試験科目として、外国語（英語）100点・小論文50点・面接50点を課している。

選考方法は、外国語・小論文・面接の成績及び書類審査（志願書・志望理由書等）により総合的に合否を判定している。

本学は夜間課程であることから、働きながら学ぶことができることが最大の特長であり、社会人にやさしい短期大学であるといえる。

受け入れ状況は下表のとおりである。

(人)

	平成20年度入学	平成21年度入学	平成22年度入学
キャリア英語科	2	5	4

今後も継続し、社会人の受け入れを積極的に推進する。

(3)過去3ヶ年(平成19年度～21年度)に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

地域社会との共存や貢献は、今日、本学の果たすべき重要な任務のひとつである。

本学では、例年、その特色を生かして公開講座等を実施し、地域社会における生涯学習の場としての役割を担っている。

公開講座は、併設の京都外国語大学との共催で実施している。また、ここに示しているもののほかに、同じく京都外国語大学との共催で、公開講演会も開催し、地域住民への生涯教育の一端を担っている。

平成19年～平成21年度に実施した公開講座は、次のとおりである。

**公開講座** (※) ①単位：人

②カッコ内は、内数で学外者数。カッコのないものは、学外者数不明。

(平成19年度実施)

名 称	実施年月日	テ ー マ	参加者数 (※)
人権週間 第10回 ひゅーまん せみなー	12月5日	「人道支援の現場から —アフリカ編—」	約170
	12月7日	「「どうしたら世界中の貧困と飢餓と戦争がなくなるのか」そして「これから僕たち日本人はどういう生き方をしていけばいいのだろうか」	約210
	12月10日	「アフリカの人々の生活と対人地雷 —アンゴラにおける地雷回避教育を通して—」	約80
教養講座	10月23日	「こころで走る」	約500
	12月4日	「京都の歴史とわたし」	約200
	平成20年 1月16日	「新春コンサート」	約800
第19回 夏季英語 セミナー	8月1日  8月2日 ～3日	≪効果的な文法指導で生徒の英語力を伸ばせる!≫ 「コーパスを英語教育の現場へ —文法と語いを中心に—」 「4技能を伸ばす文法指導 —指導法と教材—」 「動機付けの観点から考える文法指導」 「文法力は知識としてではなく、Intake Reading で身に 沁み込ませよう」 「コミュニケーションに結びつく文法指導」 「コミュニケーションのための文法をどう指導するか —実態からの提案—」	47(47)
「言語と平和」 セミナー	7月12日	「ブラジルの人種と国家 —比較の視点から—」	約180
	10月5日	「戦後日米関係と通訳者の役割 —「同時通訳の神様」 が語る日米交流の秘話と平和への想い—」	約180
	11月28日	「ことばと平和 —語る、聞く、うたう—」	約180
	12月14日	「核兵器はなくせないのか? —北朝鮮、イラン、NP T体制のゆくえ—」	約180
	平成20年 2月12日	「「湾岸ショック」と90年代の日米関係」	約180
ラテン アメリカ 教養講座	5月16日	≪食から学ぼう!ラテンアメリカ≫ 「海を渡ったポルトガル料理」	71(48)
	5月23日	「パンとチーズと砂糖の火酒」	61(40)
	5月30日	「トウモロコシと竜舌蘭」	47(32)

	6月6日 6月13日 6月20日	「ペルーにおける食文化の多様性」 「おいしいスペイン語」 「食彩の世界 ―ブラジルの風土とフード―」	40(33) 62(35) 59(33)
ラテン アメリカ 研究講座	10月29日	≪ラテンアメリカの挑戦：政治と社会と環境問題≫ 「可能性と挑戦の時代の始まり ―19世紀末ブラジルの重要3項目：コーヒー、移民、鉄道と新しい都市化の誕生―」 「ブラジルの挑戦 ―庶民の生活が見せてくれる新しいブラジル産モデル―」	128(60) 78(60)
	10月30日	「ラテンアメリカの環境保護政策と資源の有効活用」 「ラテンアメリカの挑戦」	約250 65(46)

(平成20年度実施)

名 称	実施年月日	テ ー マ	参加者数(※)
人権週間 第11回 ひゅーまん せみなー	12月4日	「アフガニスタンの現状 ―女性の人権―」	約80
	12月9日	「カンボジアで出逢った笑顔と優しさ」	約140
	12月10日	「ウガンダから日本へ」 「あしなが育英会の活動 ―国内の遺児支援から国際的な遺児の連帯へ―」	約50
教養講座	6月26日	「異文化コミュニケーションで拓く“自文化”発見の旅！」	約600
	平成21年 1月16日	「新春コンサート」	約900
第20回 夏季英語 セミナー	8月1日 ～3日	≪教師のコミュニケーション力を高める≫ 「英語を使って異文化コミュニケーション」 「生徒の意欲を高め、伝え合う力を育てるために」 「教師力を高める：より良い授業のダイナミズムを求めて」 「欧米文化を通して知る日本」 「STARING FROM SCRATCH： 教材作成能力と教室での表現力の向上を目指して」 「コミュニケーション力と情報技術の利用」	39(39)
「言語と平和」 セミナー	5月30日	「プーチンとメドベージェフ ―ロシア政治と社会を読み解く―」	約180
	11月7日	「メディアと戦争」	約180
	11月28日	「アメリカ新大統領と日米関係」	約800

(平成21年度実施)

名 称	実施年月日	テ ー マ	参加者数(※)
人権週間 第12回 ひゅーまん せみなー	12月7日	「アフリカに生れるということ―サブサハラ以南の人権を考える―」	81(3)
公開講演会	10月10日	「安藤優子「単独インタビュー」への道」	約800 (約30)
教養講座	10月20日	「あきらめなければ夢は叶う ―陸上競技人生20年の軌跡―」	約400 (約200)

	平成 22 年 1 月 16 日	「新春コンサート」	約 850 (約 600)
「言語と平和」 セミナー	10 月 2 日	「IAEA の課題と国際公務員への道」	約 180
	10 月 30 日	「言語を使っての外交：個人的体験」	約 70
ラテンアメリ カ教養講座	9 月 30 日	ブラジルおもしろ大統領博物館	46 (34)
	10 月 7 日	中米グアテマラ、マヤの祝祭博物館	38 (29)
	10 月 14 日	切手おもしろ博物館	38 (32)
	10 月 21 日	たばこのルーツを探る博物館	28 (23)
	10 月 28 日	アメリカ大陸博物館	46 (33)

(4) 過去 3 ヶ年（平成 19 年度～21 年度）の短期大学と地域社会（自治体、商工業、教育機関、その他団体等）との交流、連携等の活動について記述して下さい。

「実用ビジネス英語科」（定員 25 人）

このプログラムは、平成 14 年度から、京都府から委託を受け、キャリア英語科で培ってきたノウハウを活かし、雇用保険受給者に対し再就職のためのスキルアップを目的として開講しているものである。受講者等は、次のとおりである。

(人)

年 度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
出願者数	62	39	75
受講者数	25	25	25
修了者数	22	20	16

### 【学生の社会的活動について】

(1) 過去 3 ヶ年（平成 19 年度～21 年度）の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

京都市教育委員会と協定により、同委員会が行っている小・中・高校での学校サポート事業「学生ボランティア」に学生を派遣している。

学生は事前登録し、学生教育研究災害傷害保険に加入させたうえで、依頼のあった学校（小・中・高）へ原則として放課後に定期的に出向き、児童・生徒に対して教科や部活動の指導補助等を行う。

また、本学は京都市から日本語指導講師派遣の派遣元団体の指定を受け、滋賀県と京都府からは日本語だけでなく児童・生徒の母語でも対応できる学生指導助手の派遣要請により、日本語教員養成プログラムを履修している学生を中心に派遣している。

学生は、学生教育研究災害傷害保険に加入したうえで、依頼のあった学校（小・中・高）へ原則として放課後に定期的に出向き、児童・生徒に対して日本語指導を行っている。

短期大学公認の課外活動団体である「フリーガイドクラブ」があり、京都市内の神社・仏閣等において、外国人観光客にボランティアで英語のガイドを行う活動をして

いる。

また、食の問題を通して国際貢献を行う「テーブル・フォー・ツー・プロジェクト」というボランティア活動を平成 20 年から開始した。同年に学内で開催された「赤毛のアン出版 100 周年記念シンポジウム」には実行委員会スタッフとして参加した。

ホームページ参照「テーブル・フォー・ツー・プロジェクト」

(2) 当該短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

本学では、建学の精神に基づいた教育・学生支援プログラムが策定されている。その理念は「国際社会に貢献し、次世代の一員としての責任を自覚し、教養豊かな魅力ある人間として力強く生きていくための総合的な力」である。その「人間力」を高めるためのコンセプトの 1 つとしてあげられているのが「コミュニケーション力」であり、その力を養成する上で課外活動、ピア・サポート等とともにボランティア活動は有益であり、今後一層、重要性を増してくるものと考えられる。

学生の主体的な取り組みに対しては積極的に評価し、2 単位を上限に学生本人の申請に基づいて、教授会で審議のうえ単位を認定している。該当する学校からの活動期間・時間の証明書と事後報告書により、単位認定を行っている。この活動の単位は、教養科目（選択 B）の「学校教育支援活動（1～2 単位）」として認定している。

また、「日本語教育支援活動（1～2 単位）」については、学校長等が証明する活動時間に基づき単位を認定している。

学生の個々の活動については、学生表彰制度がある。地域社会に貢献奉仕し本学の名誉を高めた場合に与えられる総長表彰と、課外活動において優秀な成績を収め、本学の名誉を高めた場合や、その他本学発展のために貢献した場合に与えられる学長表彰の 2 種類がある。【学生の社会的活動について】(1)において前述した「赤毛のアン」プロジェクトは、平成 20 年度に学長表彰を受賞した。

また平成 21 年 4 月から学生が学生のプロジェクトを支援する「ピカ☆イチプロジェクト」を新設し、学生と大学が協働する中で学生発案の社会活動、地域貢献、ボランティア活動等の活性化に努めている。

添付資料 5 「単位修得要領」（P. 41 VI 教育支援活動等の単位認定について）

### 【国際交流・協力への取組みについて】

(1) 過去 3 ヶ年（平成 19 年度～21 年度）の学生の海外教育機関等への派遣（留学〈長期・短期〉を含む）の状況を記述して下さい。

本学と学生交流の覚書を締結しているダグラスカレッジ（カナダ）へ 1 学期間または夏期休暇中の 1 ヶ月間、以下のとおり学生を派遣している。

<1 学期間>

平成 19 年度：なし 平成 20 年度：2 人 平成 21 年度：1 人

<夏期休暇中の 1 ヶ月間>

平成 19 年度：4 人 平成 20 年度：4 人 平成 21 年度：2 人

(2) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

平成12年にダグラスカレッジ（カナダ）と学生交流に関する覚書を締結して以来、本学からの学生派遣を継続している。また、ダグラスカレッジ関係者が以下のとおり本学を訪問している。

来学日	来学目的	来学者
平成19年 6月4日	表敬訪問他	ダグラスカレッジマーケティング・マネージャー クリスティアン・ベルナルド氏
平成19年 11月8日	表敬訪問他	ダグラスカレッジ国際教育センター 村武 律氏
平成20年 4月4日	表敬訪問他	ダグラスカレッジ学長 スーザン・ウィッター氏 ダグラスカレッジ国際教育センター長 グワンウェイ・オウヤン氏
平成21年 9月28日	表敬訪問他	ダグラスカレッジ理事長 ポール・ウエイテス氏 ダグラスカレッジ国際交流センターマネージャー メラニー・イップ氏

(3) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

本学教職員の海外派遣及び国際会議出席等の状況については、以下のとおりである。  
〈海外における研究活動〉

職名	氏名	研究テーマ	期間	研究先
教授	石川保茂	Euro CALL 2007に参加し、paperとしての発表および英語e-learning教材・装置開発のための資料収集・研究活動	平成19年 9月5日～ 9月10日	アルスター大学（北アイルランド） ダブリン（アイルランド）
准教授	立岩礼子	植民地時代のメキシコ市における聖イポリト祭を通じたメキシコ市参事会の動向	平成19年 8月10日～ 9月3日	メキシコ国立文書館、メキシコ大聖堂付き文書館（メキシコ合衆国メキシコ市）
教授	石川保茂	ED-MEDIA 2008参加及び口頭発表	平成20年 6月30日～ 7月6日	ウィーン （オーストリア）

教授	石川保茂	EuroCALL 2008に参加し、paperとしての発表および英語e-learning教材・装置開発のための資料収集・研究活動	9月2日～9日	セーケスフェヘールバール、ブタペスト(ハンガリー)
教授	石川保茂	特色GP「ティームティーチングによる二言語同時学習」におけるデジタルコンテンツ収集・研究	10月31日～11月9日	スペイン ポルトガル

<海外訪問等>

職名	氏名	出張先	目的	期間
准教授	相川真佐夫	中華人民共和国	二言語同時教育(英・中国語)に係る教材作成のための映像等諸資料収集のため 中国における大学等の教育状況の視察のため	平成19年 4月28日～ 5月6日
キャリア英語 科長・ 教授	柳田博明	オーストラリア	海外セミナーオーストラリア・クイーンズランドコースに於ける学生指導及び学術教育事情調査のため	8月4日～ 8月31日
教授	服部元彦	中華人民共和国	海外セミナー中国・北京コースに於ける学生指導及び学術教育事情調査のため	8月4日～ 9月1日
教授	菅野瑞治也	ドイツ連邦共和国	海外セミナードイツコースに於ける学生指導及び学術教育事情調査のため	平成20年 2月15日～ 3月15日
准教授	立岩礼子	スペイン	海外セミナースペインコースに於ける学生指導及び学術教育事情調査のため	2月16日～ 3月14日
講師	藤倉なおこ	カナダ	海外セミナーカナダコースに於ける学生指導及び学術教育事情調査のため	8月4日～ 9月1日
講師	藤倉なおこ	オーストラリア	エクステンション講座「エアラインスタディプログラム」訓練通訳及び学生引率のため	平成22年 2月6日～ 21日

講師	筒井友弥	ドイツ	海外セミナードイツコースに於ける学生指導及び学術教育事情調査のため	2月13日～ 3月14日
准教授	岡本信照	スペイン	海外セミナースペインコースに於ける学生指導及び学術教育事情調査のため	2月27日～ 3月29日

### 【特記事項について】

(1)この《Ⅶ社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

学校法人京都外国語大学に設置する京都外国語短期大学、京都外国語大学及び京都外国語専門学校の3つが連携し、平成19年度から広く一般社会に対する外国語講座や社会人の再教育等、地域に開かれた生涯学習に積極的に取り組みを行っている。一般市民を対象とした外国語講座及び科目等履修の受講状況については次表のとおりである。

#### 平成19年度～平成21年度 履修状況

年度	学期	科目	履修者数	計
平成19年度	春	Oral Communication III	2	11
	春	Essay Writing	1	
	春	基礎スペイン語	1	
	春	日本語表現の実際	1	
	春	宇宙の科学	1	
	秋	Practical English Workshop I	1	
	秋	Oral Communication IV	1	
	秋	English Seminar I	1	
	秋	英米文学と聖書	1	
平成20年度	春	通訳の入門	1	10
	春	基礎ポルトガル語	1	
	秋	ホスピタリティ英語1	1	
	秋	映画で学ぶ英会話	7	
平成21年度	春	TOEIC 対策1	1	9
	春	基礎中国語	1	
	春	基礎スペイン語	1	
	春	総合中国語1	1	



春	国際政治と文化を学ぶ	1
春	映画で学ぶ英会話	4

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点を求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

### < 添付・参考資料 >

#### 1. 社会人受け入れについての印刷物等

添付資料 7 「社会人特別入学試験募集要項」

#### 2. 海外留学希望者に向けた印刷物等

参考資料 34 「スタディーアブロード」

参考資料 35 「派遣・認定留学ガイドライン」

参考資料 36 「派遣留学協定大学の紹介」（春・秋学期留学開始分）

参考資料 37 「ゼロからスタート海外留学ハンドブック」各語圏

参考資料 38 「海外セミナー（春）ご案内・コースガイド」